奈良工業高等専門学校	開講年度	令和02年度 (2020年度)	授業科目	英文法Ⅰ

科目基礎情報

科目番号	0011	科目区分	一般 / 必修
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2
開設学科	機械工学科	対象学年	1
開設期	通年	週時間数	2
教科書/教材	アトラス総合英語 English Grammar Navigator in 27 Lessons (桐原書店)		
担当教員	金澤 直志		

到達目標

英語運用能力の素地を養い、特に英語の2技能（読み・書き）の確かな習得を目指す。文法を単元別に学習することにより、各単元の知識を深め、将来必要とされる正確な文法分析力、英語表現力の育成と定着を図る。英語Ⅰ（3単位）と連携をとりながら、総合的な英語力を高める。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	基礎的な文法事項や構文を理解し，正しく運用することができる。	基礎的な文法事項や構文を理解し，おおむね運用することができる。	基礎的な文法事項や構文を理解し，正しく運用することができない。
評価項目2	身近な事柄について、既習の文法を用いて、正しく表現することができる。	身近な事柄について、既習の文法を用いて、おおむね表現することができる。	身近な事柄について、既習の文法を用いて、正しく表現することができない。
評価項目3	英語表現に必要な語彙の意味を理解し、英作文で正しく用いることができる。	英語表現に必要な語彙の意味を理解し、英作文でおおむね用いることができる。	英語表現に必要な語彙の意味を理解し、英作文でただしく用いることができない。

学科の到達目標項目との関係

準学士課程（本科１～５年）学習教育目標 （３）

教育方法等

概要	単元別に文法事項を学習していく。学習内容における英語文法力の定着を促すために、単元ごとに小テストを行うようにする。教科書を中心に講義を進め、補助教材で各自が復習を行い、問題を解く速度を上げていけるようにする。
授業の進め方・方法	学習単元を徹底理解するためには、予習復習は欠くことができない。新しい単元を学習する際には、必ず各自が予習を行い、文法理解の妨げにならないよう未習の単語などは調べたうえで講義に臨むこととする。
注意点	講義中は、ノートを取り、復習に役立てるよう工夫すること。 事前学習：各章の右側のページ(奇数ページ）にあるExerciseを解答しておき、ノート提出できるようにしておく。 事後展開学習：授業中に作成した「板書用ノート」をみながら、復習し、クイズやテストに備える。

学修単位の履修上の注意

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	ガイダンス	授業の進め方と説明
		2週	動詞と文型（１）	SVC
		3週	動詞と文型（２）	SVCからSV
		4週	動詞と文型（３）	SVからSVO
		5週	動詞と文型（４）	SVOからSVOO
		6週	動詞と文型（５）	SVOOからSVOC
		7週	時制（１）	過去形、現在形
		8週	まとめ・復習	
	2ndQ	9週	時制（２）	進行形
		10週	時制（３）	未来形
		11週	文型と時制の総括	まとめ
		12週	完了形（１）	現在完了形 現在完了進行形
		13週	完了形（１）（２）	現在完了進行形 過去完了形
		14週	完了形（２）	過去完了進行形 未来完了形
		15週	まとめ・総復習	これまでの学習のまとめ
		16週	前期末試験	
後期	3rdQ	1週	映画で英語	Handout No.1 映画で英語
		2週	映画で英語	Handout No.1 映画で英語
		3週	助動詞（１）	能力・許可
		4週	助動詞（１）（２）	義務・必要
		5週	助動詞（２）	可能性・推量
		6週	助動詞（３）	need/ used to
		7週	助動詞（３）、態（１）	助動詞+have+過去分詞 受動態の基本形
		8週	まとめ・総復習	
	4thQ	9週	態（１）	SVOOの受動態
		10週	態（２）	SVOCの受動態
		11週	態（２）、不定詞（１）	注意すべき受動態 3用法

		12週	不定詞（1）	3用法 SVO+to不定詞
		13週	不定詞（2）	SVO+to不定詞 不定詞意味上の主語
		14週	不定詞（3）	使役動詞・知覚動詞を使った表現
		15週	まとめ・総復習	これまでの学習のまとめ
		16週	学年末試験	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	英語	英語運用の基礎となる知識	聞き手に伝わるよう、句・文における基本的なリズムやイントネーション、音のつながりに配慮して、音読あるいは発話できる。	3	
				明瞭で聞き手に伝わるような発話ができるよう、英語の発音・アクセントの規則を習得して適切に運用できる。	3	
				中学で既習の語彙の定着を図り、高等学校学習指導要領に準じた新出語彙、及び専門教育に必要となる英語専門用語を習得して適切な運用ができる。	3	
				中学で既習の文法や文構造に加え、高等学校学習指導要領に準じた文法や文構造を習得して適切に運用できる。	3	
			英語運用能力の基礎固め	日常生活や身近な話題に関して、毎分100語程度の速度ではっきりとした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることができる。	3	
				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を基本的な表現を用いて英語で話すことができる。	3	
				説明や物語などの文章を毎分100語程度の速度で聞き手に伝わるように音読ができる。	3	
				平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。	3	
				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を整理し、100語程度のまとまりのある文章を英語で書くことができる。	3	
				母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、実際の場面で積極的にコミュニケーションを図ることができる。	3	
				実際の場面や目的に応じて、基本的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト)を適切に用いることができる。	3	
			英語運用能力向上のための学習	自分の専門分野などの予備知識のある内容や関心のある事柄に関する報告や対話などを毎分120語程度の速度で聞いて、概要を把握し、情報を聞き取ることができる。	3	
				英語でのディスカッション(必要に応じてディベート)を想定して、教室内でのやり取りや教室外での日常的な質問や応答などができる。	3	
				英語でディスカッション(必要に応じてディベート)を行うため、学生自ら準備活動や情報収集を行い、主体的な態度で行動できる。	3	
				母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、教室内外で英語で円滑なコミュニケーションをとることができる。	3	
				関心のあるトピックについて、200語程度の文章をパラグラフライティングなど論理的文章の構成に留意して書くことができる。	3	
				関心のあるトピックや自分の専門分野のプレゼン等にもつながる平易な英語での口頭発表や、内容に関する簡単な質問や応答などのやりとりができる。	3	
				関心のあるトピックや自分の専門分野に関する論文やマニュアルなどの概要を把握し、必要な情報を読み取ることができる。	3	
				英文資料を、自分の専門分野に関する論文の英文アブストラクトや口頭発表用の資料等の作成にもつながるよう、英文テクニカルライティングにおける基礎的な語彙や表現を使って書くことができる。	3	
				実際の場面や目的に応じて、効果的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト、代用表現、聞き返しなど)を適切に用いることができる。	3	

評価割合

	試験	小テスト	課題	発表	その他	その他	合計
総合評価割合	30	20	25	25	0	0	100
基礎的能力	0	20	25	0	0	0	45
専門的能力	30	0	0	0	0	0	30
分野横断的能力	0	0	0	25	0	0	25